まほらに吹く風に乗って
＜日本の美しい風景と歴史のプチディクショナリ＞

地域に眠る埋もれた歴史シリーズ（12）

水郷潮来･牛堀・延方を行く

ふるさと“風”の会

まほらに吹く風に乗って
＜日本の美しい風景と歴史のプチディクショナリ＞

ふるさと風の文庫

地域に眠る埋もれた歴史シリーズ（12）

水郷潮来・牛掘・延方を行く

木村　進

ふるさと“風”の会

（1）鎌倉ゆかりの寺「長勝寺」

潮来の町としてまず紹介すとすればこの鎌倉ゆかりの古刹の寺を紹介すべきでしょう。この寺は源頼朝と縁が深い寺で、1185 年に源頼朝が創建したと伝わる。同じ潮来の辻にある「硯宮神社」は 1180 年頃に頼朝が鹿島神宮に戦勝を祈願してこの地で祈願文を書いた時に使った硯（すずり）を奉納したといわれています。頼朝はこの後常陸国府である府中（石岡）にも佐竹氏追討にやってきて大矢橋事件が起こっています。それから 5 年後の 1185 年といえば壇ノ浦で平家に勝利した年であり、今では鎌倉幕府成立の年とされています。この年に潮来で何があったのかはよくわかっていません。この長勝寺はその後消失して廃れていたものを水戸光圀が京都の妙心寺の僧侶を招いて復興させたそうです。

入口山門から本堂に続く間の参道は春には桜が、5月には新緑がとても美しい寺です。この楼門形式の山門は、制作年代もあまりはっきりしませんが室町時代と考えられています（県指定文化財）。説明によると、元禄時代（江戸初期）に普門院の山門として建立していたものを水戸光圀がこの寺に移したと伝わります。

春に訪れた後、潮来の前川アヤメ園を見学した時に、またやってきました。アヤメ園から長勝寺までの沿道にはあちらこちらに紫陽花の花が咲いてとてもきれいにしてあります。多くの観光客の目を楽しませてくれてくれます。この時期の緑の葉もとても美しい。

山門と説明にはありましたが、2階建楼門形式の仁王門です。

しかし、門の両側のスペースには仁王像は置かれていません。

本堂と鐘楼

この古刹「長勝寺」は、鎌倉界隈を彷彿させる。山門をくぐると正面に立派な本堂が見えてきます。藁葺きの本道は堂々としてその風格を感じます。造りは桃山時代と考えられると書かれています。笹竜胆の家紋（寺紋）などが施されており源氏を祀る寺です。

臨済宗という禅寺ですから鎌倉時代以降から室町時代頃にこの寺が臨済宗になったようです。この長勝寺には明治の時代にすでに国の重要文化財となっている銅鐘があります。この鐘は 1330 年（元徳２）に北条高時が源頼朝の菩提の為に寄進したもので、鐘銘の作者は、鎌倉円覚寺十六世清拙和尚（大鑑禅師）で、鋳物師は甲斐権守ト部助光だそうです。鐘の銘に「客船夜泊常陸蘇城」と書かれています。常陸蘇城ということは、この常陸国板来（潮来）が中国の蘇州の風情に似ていたのでしょう。この時すでにここは水運が発達していたのです。江戸時代よりかなり前です。たくさ

んの客船がこの潮来の湊に停泊していたようです。北条高時はその後、新田氏に鎌倉を攻められ 31 歳で自刀してしまいます。
この寺の本尊は「釈迦如来」でアヤメ祭りの時に本堂の扉が開いていたのでじっくり拝ませていただきました。

潮来の駅屋

境内を散策していたら「潮来の駅屋（うまや）跡」という碑を発見しました。奈良や平安時代に古東海道や東山道の官道の途中に馬を常備させた駅屋（うまや）が置かれました。潮来はこの東海道から外れますが、常陸国国府（石岡）から鹿島神宮までの道があり、その途中に置かれたと言われています。

常陸国府(石岡) ―曾尼(曾祢)駅(旧玉造町手賀)― 板来駅― 鹿島神宮

のルートです。曾尼（曾祢）（そね）というのは常陸風土記に「提賀の里より北に、曾尼(そね)の村がある。昔この地に住んでいたそねびこといふ佐伯の名から名付けられた。今は駅家(うまや)が置かれている。」と書かれています。そのため、手賀の少し北のあたりとされます。

一方こちらの板来駅は、調べてみると弘仁６年（815）にこの駅は廃止と

なり、曾尼駅から直接鹿島神宮に向かっていたといわれています。かなり初期のうちに廃止になったのですから、場所の特定は難しいと思われます。また、この頃は水上のルートもあり、この道の利用状況はわかりません。この古道の駅の多くが未だに場所が特定されていません。

その他に、芭蕉が鹿島紀行（貞享４年（1687）で残した歌の歌碑や、昭和７年に建立の連句碑があります。

(2)稲荷山

潮来の街は常陸利根川を挟んだ低地の水郷地帯を中心に広がっていますが、その北側にこんもりとした森がある。それが稲荷山です。稲荷神社ですから当然キツネ像が置かれています。下から赤い旗に導かれて階段を上ると正面に稲荷神社社殿がありまる。しかしこの高台のところを国道51 号線が走っているので、国道とは同じ高さになる。

国道側から入ると森林公園のような雰囲気で、左手には「稲荷山古墳群」があるという。右手に稲荷神社がある。この神社の階段上から潮来の街を

見渡せる。この稲荷神社は宝暦 13 年（1763）に京都伏見稲荷から分霊して、最初は麓の長勝寺内に置かれたが、その後この山に神殿を建てて奉納した。歴史としては江戸時代ということでそれほど古くは無いが、江戸時代にはここ潮来は水運の中心地となり、街も華やかであった。

この森の中に潮来のシンボルとして色々な記念碑が置かれていた。古墳群の森の中に立派な「菊池寛の碑」が置かれていた。また、稲荷神社西側には「茨城百景水郷潮来」の碑があり、その横に「野口雨情と中山晋平」の歌碑「船頭小唄」があった。

また少し変わったものとして、神社の近くに「潮来町立女子技芸学校跡」の碑が立っていました。この技芸学校は、明治 40 年に神社の横に建てられ、昭和 13 年に東の下の方に移転したようです。

この技芸学校というのはいかにも潮来らしいですね。その後高等女学校になり、現在の県立潮来高校となりました。京都などは芸子や舞妓などの養成学校のようですが、潮来も江戸・明治頃は花街として賑わったようですが、この学校はあまりそのような養成学校とは違うようです。